【PV】

「おらあ♡　もっと腰上げなさいよ♡」

「こらっ♡　オクチマンコ止まってるゾ♡」

「あはっ♡　先っぽ入れただけでアクメしちゃったね♡」

「うふふ♡　私の極太チンポそんなに美味しい？」

「ねえ♡　私達のバキバキペニスが好きなのはわかるけど♡」

「たかがpv如きでアヘ顔晒すのは早過ぎよ♡」

「ん～？　　ケツマンコを軽～くなぞられただけでお漏らしアクメかな～？」

「くすくす♡　見てみて♡　この子ッ♪　今凄いひょっとこフェラでおねだりしてる♡」

「あははは♡　世話の焼ける子ねぇ♡」

「今からメス堕ちしてたら　本編が思いやられるわねぇ♡」

「おいマンコ♡　おあずけだ♡」

「はーい、お・あ・ず。け♡　フェラ中止～♡」

「おらぁ♡　一人でヨガってるんじゃない♡　この淫乱肉便器が♡」

「続きは本編で幾らでもしてあげるからね♪」

「安心しなさい♡　オマエは私達の苗床として永遠のアクメ地獄に堕としてあげるから♪」

「穴という穴を私達の極太チンポで開発し尽してあげるね♡」

「よーし、そこに跪け♡」

「家畜は四つん這いでしょ♡」

「くすくすくす　　似合ってるわよ♪　おトイレ君♪　」

「私達が使ってあげるまで、　そうやって便座を閉じてなさい♡」

「いい子でお座りしてなさい♡」

「御褒美チンポ、期待してていいからね♡」

「うふふふふ♡　あはははは♡　あーはっはっはっは♡」

「くすくす♡　この子ったら♡　くすっ　　あはははは♡」

【苗床捕獲調教】

「フフフ・・・
お目覚めかしら？」

「ちょっとペニスを押し付けてやったらフラフラ付いてきて・・・
バカな子ねぇ♪」

「くすくす♡
仕方ないよね～♪
フタナリチンポに誘われて断れる子なんているわけないよね～♡」

「ウフフ♥・・・
ただのフタナリじゃないわよ
・・・んんっ♥・・・フフッ♥
・・・見なさいこの巨根♥
・・・これが本物のペニスよ♥
目に焼き付けなさい」

「ほらあ♡
どう？
バキバキに勃起してて素敵でしょ？」

「触っていいのよ～♡
味わいなさい♡　ゴツゴツペニスの感触♪」

「うふふ～
私達の極太チンポを見せつけてやったら♡
どんな生意気な子でも可愛い仔猫ちゃんになっちゃうのよ♡」

「あらあら、オマエのおかざりチンポは萎えちゃってるねぇw
それとも勃起してその程度なのかな？」

「それじゃあ本題
・・・の前に自己紹介をしておきましょうか

私は…
ふふっ　その必要はないか♪」

「オマエが私達を呼ぶ事なんてないからね♡」

「今からオマエのお口はチンポをねじ込まれるだけのクチマンコ便所♡」

「便所は一生喋る必要なんてない♡」

「隙間から漏れてくる、ギャン泣きアクメ♡
楽しみだわ～♪」

「じゃあ、そういうことで♡
上のお口もしっかり役に立ってよね♪
苗床クン♥」

「ふふっ
そうよ、クチマンコ便所程度で済ませて貰えるわけないよねぇ♡

貴方には私達の苗床になってもらうわ♥」

「な・え・ど・こ♡
私達に種付けされ続ける出産用の部品のことよ～♡」

「・・・ん？
『オトコノコだから妊娠出来ないでちゅ～』
とでも言いたげな顔ねぇ♥」

「この子何にも知らないのね？
ケツマンコを調教しちゃえば、オトコノコも普通に妊娠出来るのよ？」

「そんなの今時常識なんだけどなｗ」

「でね？
オマエのお尻の形♪
凄くそそるわ。
ハメ奴隷用の肉付♡」

「多分、私達と相性いい♪
レイプされる為に生まれて来たみたいな腰つきよ♪

喜びなさい。
力づくで孕まされる快感をを教えてあげる。

ふふっ
オマエはきっといい苗床になるわ♪」

「フフフ・・・前置きはもういいでしょう♥
見なさいこのふたなりチンポ♥
おやおや目が離せなくなっちゃったかな♪
淫乱な子ｗ
ほら、身体を隠すんじゃない。
オマエはもう、私たちのメス便所だよ。
ちゃんと自覚しなさい。」

「・・・へぇ♥
小さ～いｗ
勃起してるの？　それｗ
ってｗ
まだ何もしてないのにビショビショじゃないｗ
強姦されるのがそんなに楽しみ？」

「ホラッ♥
何をパタパタしてるのかな～ｗｗｗ
あははっ
ひょっとしてそれで抵抗してるつもりなんだぁ♪
かっわいい～ｗｗｗ
私、この子気に入ったかも～
うふふ♪
念入りに苛めてあげるね。」

「あら～＾＾
この子涙目で震えてるｗｗ
そそるわ～
堪んないわね～♪
いいわよ～
怯えなさい、すくみなさいｗ
オスに生まれた事を活かせないまま、メス堕ちしなさいｗ」

「痛いよ～♪
私達の極太ペニス、メリメリ捻じ込むよぉｗｗ」

「ほらあ♪
奉仕しなさい♡
前戯で私たちのペニスを少しは湿らさないと
ケツマンコ処女が破られた瞬間に死ぬわよｗｗ」

「ふふっ♪
兜合わせで奉仕して貰おうかな♪
短小チンポ君が泣きながら兜合わせ奉仕で命乞いする場面って♪」

「一番そそるよね～♪」

「あっはっはｗｗｗ」

「よーし。
擦り付けなさい。
オマエのその負け犬チンポを使って私達どちらかを射精させなさい。
上手に出来たら、優しい優しい御褒美レイプで可愛がってあげる♪」

「逆にね？
心が籠ってないと私達が感じたら…
拷問用のお仕置きレイプ。

本物の地獄を見せてあげる♪」

「・・・それじゃあ開始ね♥
ほら♥頑張りなさい♥」

「ホラホラッ♥頑張って腰振ってチンポ擦り付けなさい♥
・・・それにしても本当に粗末なチンポねぇ♥
私達の勃起前チンポの１／５もないんじゃない？
・・・フフフッ♥
サイズ差が有りすぎて全然気持ちよくないんだけど？」

「１人だけ気持ちよさそうな顔して・・・やる気有るのかしら？
あはっ♪
もう駄目そうね♥
情けない子ｗ
これ以上やっても無駄そうだから？
とりあえず一発抜いとく？」

「そうね。
時間の無駄だわ。
ローション用に精子出しとくね～。」

「よーし、それじゃあ
まずはオマエから出しときなさい。
遠慮しなくていいよ～
私達のチンポで、その短小・・・押しつぶしてあげる♥
・・・ホラッ♥イケッ♥」

「あはははは♡
オマエの短小ゴミチンポ♡
私達の極太オチンポ様に踏み潰されちゃうねえ♪」

「あはははは♡
軽く置いただけなのに惨めに圧し潰れちゃった♪」

「よっわーい♡」

「無様ね♡」

「・・・はい♥
ぴゅっぴゅ♪
・・・それにしてもオマエ
情けなくてしょぼい射精ねぇ♥

何？
その薄い汁がオマエの精子なの？」

「っぷｗｗ
こんなゴミ精液初めて見たｗｗｗ
去勢する手間が省けて良かったね♪
オマエ、最初からオスのなりそこないだったわ。」

「うふふ～
なっさけない奴ｗｗｗ
苗床以外に使い道なそうねｗｗ
ザーメンタンク専用かな～、コイツは♪
おい、精液便所♪」

「ふふっ
特別に本物の射精を見せてあげる♥
光栄に思いなさい。」

「ほらあ、私達の射精を目に焼き付けなさい♡」

「・・・んふっ♥
私の極太ペニスが射精する瞬間を見せてあげる♪」

「どう？
重量感あるでしょ？

これが本物のペニスよ。
メス穴を屈服させるための生殖器。」

「・・・ほらっ♥よく見なさい♥
綺麗な美しい指が極太ペニスを這いまわってるねぇ？」

「あんッ♪
ふふっ
私、敏感なのｗ」

「ふーっ♥
ふーっ♥
フフフ♥」

「こんなオナニー貴方にはできないでしょう♥
そんな短小チンポじゃあ指先で摘んでクチュクチュするので精一杯よねぇ♥」

「・・・ふぅっ♥
勢い良くヤリ過ぎてもう出そうだわ♥
私の射精・・・しっかり受け止めるのよ♥」

「・・・ぐぅ♥おっ♥お゛っ♥お゛お゛お゛っ♥イクッ♥イクゥゥウッ♥」」

「お゛お゛お゛お゛お゛ぉ゛ぉ゛ぉ゛♥
射精気持ちいいぃぃぃっ♥ふーっ♥ふーっ♥おっ♥ふぅ・・・♥」

「どう？これが射精よ♥」

「貴方の惨めなお漏らしとは違う・・・ね♥」

「おやおや、格の違いを見せつけられて呆然としちゃってるわね♡」

「こらこら♡
レイプ目になるのは私達がハメ終わってからにしてよね♪」

「あーあ♥
ザーメンまみれねぇ♥
可愛い♡」

「ああ、先に教えといてあげるけど…
フタナリの特濃ザーメンってちょっとした効果があるの♪」

「あら？
やっぱり知らなかった？」

「まだ気づかないの？
オマエのチンポ・・・
さっきより萎えてきてるよね？」

「・・・ウフフ♥
フタナリの優れた精液を見せつけられるとね？
脳が自分の立場を弁えちゃうんだってｗ」

「『ボクなんかがオトコノコを名乗るのはおこがましいでちゅー
これからはケツマンコ便所としてオチンポ様に御奉仕致しまちゅー』
ってね♪」

「あはは。
臭いを嗅いだだけでこれなんだから・・・
直接体内に入れられたら・・・
言わなくても分かるわよねぇ♥」

「あらら～♪
嫌なの？
まだオトコノコである事に未練がある？
うふふｗかっわいい～ｗｗｗ」

「あはは必死になっちゃって♪
お姉さんね、こういうひたむきな目を見るとキュンキュンしちゃうｗｗ」

「うふふ、それ命乞いのつもりなの？」

「あははは、媚び媚びしちゃって♪
いけない仔猫ちゃんね♡」

「去勢が怖いの？
フフッ♥
そうねぇ・・・
そんなにオトコノコでいたいなら、行動で証明してみよっか？
ふふっ
簡単だよ～♪
オマエの雌堕ち寸前チンポで私達のどちらかに中だし射精すればいいだけ♥
要はね？
自分自身の身体に、自分はオスであるって思い出させればいいだけだから。」

「あはは～ｗｗ
手間のかかる子ね♪
まあ、そこが可愛いんだけどｗ
ほぉら♥
仰向けで大股開いてあげる♥
遠慮しなくていいのよ♥
こっちに来て私達を犯してみなさい♥」

「おいでぇ♥
おいでぇ♥
・・・フフ♥
もう少しよぉ♥
あらあらぁｗｗ
どうしたのぉ？
早くその逞しい短小ペニスを私のジュクジュクオマンコに入れてぇ♪」

「あははっｗｗ
入れ方が解らないんでちゅか～♪」

「コイツ、女の脚もずらせないなんてｗｗ
生きてて恥ずかしくないのかしら♪」

「うふふっ
自力で女も抱けないなんて♡」

「無能ゴミチンポ♡」

「オスを名乗る資格ないわよねー♡」

「なさけない奴♡」

「ばーか♪」

「腰を持ち上げればいいだけなのにねぇ♪
短小チンポ君にはハードルが高すぎたかな？」

「うふふ。
かっこわるｗｗ」

「ほらほらっ♥
足を払いのけて私達とセックスしないとぉ♥」

「・・・あーあ♥
もうメスの顔になっちゃってるね♥
フフッ♥」

「あらあら～♪
女に笑われて射精するの～？」

「くすくす♪
オマンコが目の前にあるのにｗｗ」

「ほーら、負け犬チンポでゴミ精子ぴゅっぴゅしちゃいなさい♪」

「あはは
はい♥お終い♥
負け犬お漏らしチョロチョロ～♥
・・・さっきよりも薄くなっちゃたね？
女の愛液より薄いんじゃない？」

「おやおや♪
もうメス堕ちし終わったようなものじゃないｗ
無様ね♡」

「おい、メス穴。
私のチンポをしゃぶりなさい・・・
歯を立てたら内蔵破裂ケツ穴レイプの刑だから♪
ん♥
素直ね♥イイ子よ♥
・・・フフフッ♥
随分積極的じゃない♥
オマエ、性欲処理用のおトイレ君としてはいい線行ってるわよ。
あっ♥いいわぁ♥
もっとじゅぼじゅぼって下品に音を立ててしゃぶりなさいっ♥」

「あらあら♡
自力でセックス出来ない癖に
オチンポちゅーちゅーはお上手ねぇ♡」

「あははっ♡
コイツ、オスとしてはゴミ以下だけど♡
チンポしゃぶり機としては最高♡」

「２人とも気持ちよさそうねぇ・・・♥
それじゃあ私は・・・こっちの準備をしておきましょうか♥
フフッ♥
オマエのケツマンコ♥
解しておいてあげるわ♥・・・ほら♥
指入れてクチュ♥クチュ♥
って・・・どう気持ちいい？」

「んおっ♥
急に吸い付きが良くなったわ♥
アナル気持ちいいのね♥
こういう淫乱な子って苛め甲斐があって好き♪
堪らないわぁ
おほっ♥
舌が絡みつく♪」

「うっそ♡
このケツマンコ、うねうねおねだりしてるわぁ♡
うっわー♡
こんな淫乱肉便器は初めてよぉ♡」

「きゃふう～♪
使い勝手のいい便所を拾えて良かったわ。
ああ最高っ♥」

「あははは♡
こんなに美味しそうにチンポしゃぶる子いないよ～♪
公衆便所向けの逸材だよね、オマエ♡」

「イクわよっ♥
喉奥までチンポ突っ込んで直接胃の中にザーメンぶっこんであげるわっ♥
おっ♥おほぉっ♥
んぉおおおおっ♥
んはあああああああぁ♡」

「はーい♡
クチマンコとケツマンコの接続作業完了♡
もう片っぽだけじゃ満足出来ない身体になっちゃったね～♡」

「おほっ♥
この子私のザーメン搾り取ろうとしてるっ♥
フフッ♥
こういう肉便器欲しかったのよねぇ♪」

「うふふー。
上のおロと下のおロ♡
両方でアクメしちゃったの？
やだー可愛いー♡」

「んっひあ♡
・・・おっ♥んおっ♥ふぅ♥
このクチマンコ最高すぎでしょ♡」

「・・・フフフッ♥
あらあら、すっかり欲張りなメス豚顔ねｗｗ
鼻から精液出てるわよ♥・・・ん♥」

「・・・フフッ♥
貴方のチンポ完全に萎えたわね♥
そろそろケツマンコが疼いて来たんじゃないかしら？」

「この程度で終わりとか思ってないよね？
全部の穴をチンポ漬けにしてあげるからね♡」

「そうね♥
指を入れればきゅうきゅう締め付けてきて・・・♥
フフフ♥
オマエのケツマンコｗ
いやらしくおねだりしてるよ？」

「あはは
コイツ、プライドとかないのかしら♪
いいわ。
オマエのおねだりマンコに御褒美チンポをねじ込んであげる。
おらあ♡
便座が閉まってるわよ♪」

「オチンポをハメハメして貰う時はね？
ちゃんとパカパカしなくちゃ駄目だよ♡
わかったかな？　おトイレ君♪」

「さあ、お待ちかねのケツマンハメハメの時間よ♡」

「おめでとう♡
やっとオチンポアクメを仕込んで貰えるね♡」

「・・・くっ♥んおっ♥
・・・フフッ♥かなりいい具合ね♥
ふー♪
この熱々ケツ穴便器
ホントに私好みだわ〜♡

おらっ
もっと腰を振りなさいよ♪

ホラホラッ♥
私の特濃精液をドクドク注いであげるっ♥」

「コラ♥
おロがお留守だぞ♪
もっと肉便器の自覚を持ちなさい♪
私の極太ペニスにも忘れず奉仕するのよ♥
・・・んっ♥
そうよっ♥
あはっ♪
上手上手ｗ
どこで覚えたのかしら♪
キャン♪
この子の舌遣い、凄い♪
うふっ
手放せない肉便器になりそう♡」

「こら　ケツマンコッ
自分からもっと腰を動かしなさい。
オチンポ様に手間を掛けさせるな。
ほらあ。
マンコの分際で楽をしようとするんじゃない。」

「おひっ♥
お゛っ♥
あはっ♥
んぐうう♡
コイツのクチマンコ凄い…
奉仕しろとは言ったけどぉ♪
このクチマンコ熱くて柔らかい♡
ちょっと見てよw
このひょっとこフェラ顔ｗｗ
健気で可愛いわぁ♪」

「おい、ケツマンコ。
後で私にもひょっとこフェラ奉仕しなさいよ。」

「・・・あんっ♥
もう♥
そんなに私の極太チンポが美味しぃ　・・・のほっ♥
・・・んっ♥
んひゃっ♥
気持ちいいっ♥
おほぉっ♥
で、出ちゃっ♪」

「あっ♪
ケツマンコに振動が来るぅ
ああ～
この二穴便所気に入ったわぁ♪」

「うぐうううう♡
私、普段はもっと長持ちするのにい♡」

「コイツのマンコエロすぎい♡」

「きゃうん♪
精液吸い取られちゃうよぉ♡」

「あはっ♡
駄目♪　無理ぃ♡
お射精我慢出来ないっ♡」

「はぁぁぁん♥
暴発しちゃったぁぁっあっはぁぁっ♥
やだっ♥
あんなに射精したのに♥
お゛っ♥お゛ほっ♥
あ゛はあああああ♪
このクチマンコ吸い付き良くなってるぅぉ♥」

「うぐっ♥
ケツマンコの締まりも良くなったわっ♥
ああ、このマンコ凄いっ♪
このマンコ凄いっ♪

私もイクわよっ
♥ホラッ♥ホラッ♥
出すわよっ♥
しっかり受け止めなさいっ♥

んあっ♥イグッ♥イグゥゥゥッ♥」

「はぁっ♥はぁっ♥
・・・んおっ♥
たまんなぁい♪
使い勝手のいい便所だわぁ♡
全部マンコで呑み干しなさい♪
一滴でも零したら
おしおきよ♥
うふふ。

思ってたより、苗床改造は早く終わるかも♪」

「あふっッ♪
あああ、お掃除フェラいいッ♪
本当にコイツ生まれながらの肉便器だわ♡
苗床専用は勿体無いかも♥
んふう♥
お掃除フェラ上手よ♪
っ♪　　あはあああ♪
…オマエは最高のおトイレ君ね♪」

「そうねぇ・・・
確かに、苗床専用は勿体ないかな。
性欲処理奴隷として普段使いしたいよね。」

「フフフ♥
それじゃ次は私がケツマンコを犯すわね♥
休憩なんてないわよ♪
オマエが身も心もメス堕ちするまでは犯し続けるから♪」

「自我も抹消しておこうかな？
マンコの分際であれこれ考えるなんて必要ないよね？」

「うふふ。
オマエの薄っぺらい自我、私の精液で塗りつぶしてあげる♪」

「オマエは惨めな惨めなザーメンタンク♪」

「もちろん食事は私達のドロドロ精子よぉっ♥」

「・・・フフッ♥
コイツ射精した♥」

「興奮しちゃったの？
レイプされる為に生まれて来たみたいな子よね～ｗｗ」

「あら～♪
また精液が薄まってる♥」

「くすくす。
殆ど水じゃない♪」

「「思ったより早く終わりそうねぇ・・・♥」」

【婚約二輪挿】

「フフッ♥
それにしても♡
コイツ堕ちるの早すぎｗｗ」

「チョロいにも程があるわよね♪」

「すっかりメス便器よねえ♪」

「股間の小さなペニクリｗｗ
これがチャームポイントよね♪
素敵よ、オマンコちゃん♥」

「コイツが可愛すぎて
ついついヤリ過ぎちゃったわ♥」

「オマエののメスイキアへ顔がそそるのが悪いのよ♪」

「チンポの乾く暇がなかったかもｗｗ」

「あ、そうだ。
オマエのこと苗床にするつもりだったけど撤回するわ♥」

「そうよ、苗床の話は忘れなさい♪」

「まぁ、エンドレス孕ませっていうのは変わらないけどね♪」

「但し、苗床じゃなくて私達の妻として、ね♪」

「私達の共有奴隷妻として産ませ続けるから♥」

「あーあ♥
嬉しそうなメスの顔しちゃって♥
そこまで喜ばれたらこっちが恥ずかしくなるよね♪」

「フフッ♥
どうやらプロポーズはＯＫということね♥」

「末永く可愛がってあげるね、お姫様♪　ちゅっ　（優しいキス）」

「オマエも誓いなさい♥」

「私達への永遠の愛をね♥」

「勿論、純潔と貞操もよ？」

「くすくす、可愛い花嫁ちゃんね♪」

「あらあらあら―♥
結婚と同時に絶頂？」

「これは一から躾が必要かな♪」

「駄目じゃないｗ
せっかくのウェディングを汚しちゃ♥」

「まぁこれからたっぷり私達が汚してあげるんだけど♥
・・・ウフフ♥」

「それにしてもこの子のチンポ・・・
かなり小さくなったねぇ♡
精液からも匂いがしないし♥」

「くすくす。
もういらないんだもんね？」

「じゃあ、早速初夜を楽しませて貰おうかな♪」

「フフフ♥
見なさい私達のチンポ♥
ずっとオマエを犯し続けてたのに♥」

「オマエを孕ませたくてギンギンに勃起しているの♥
・・・はーっ♥
はーっ♥
ふーっ♥
精液がドンドン作られてるのがわかるわぁ♥
んおっ♥
先走りが溢れそうっ♥
おほっ♥
あはぁっ♥」

「もう待ちきれない♥
ホラ♥ホラァッ♥
オマエもケツマンコぐちょぬれじゃない♥
早く早くぅ♥」

「あっ♥待ちなさいよっ♥
私だって早く種付けしたくて我慢の限界なんだからっ♥
ホラッ♥
チンポだって私の方がギンギンで先走りもたくさんっ♥
もう我慢できないわよっ♥
私が先っ♥ねっ♥
オマエも私のチンポの方がいいでしょっ♥」

「私のよねっ♥
私のチンポで種付けされたいわよねっ♥
私の極太ガチガチペニスで発狂アクメ地獄に堕ちたいよね？
ほらっ♥早く決めなさいっ♥」

「・・・えっ！？両方？
・・・両方のチンポで２人同時に愛して欲しいって？
・・・フッ・・・フフフ♥」

「嘘？
二輪挿しアクメ便所になりたいの？
あははは♪」

「あはっ♥
ほーんといい嫁じゃなーい♪
コイツ当たりだわw

よーし、健気な良妻賢母クンにはお望み通り同時種付けだ♪

「・・・ウフフッ♥
少し大変だけど２人で愛してあげる♥
勝手に壊れちゃ駄目だよ♪」

「・・・いくわよぉ♥」

「せーのっ♥それっ♥」

「あらぁ♥
先っぽ入れただけでペニクリ絶頂♥
かっわいいいーw」

「うふふふふ♡
身も心もチンポ一色に染まっちゃってるよね♡」

「ほらあ、まだまだメリメリ行くよぉ」

「奥までズンズン突いてあげる♡」

「あらあら
もうアヘ顔アクメしちゃったの？」

「ホントにこの子ったら淫乱よねぇ♡」

「そんなに良かったの？
２本差しは♥ホラッ♥ホラッ♥
２人交互に突かれるのはどうっ♥」

「あはっ♥そんなに締め付けて♥
余程ザーメンが欲しいのね♥フフフッ♥」

「おっ♥おっ♥相変わらず貪欲なケツマンコね♥
２本でも足りないのかしら♥」

「ぐちゅぐちゅ音鳴らしてホントいやらしいわねっ♥
んおっ♥
コイツまたおねだりか♪
どんだけザーメン欲しいのよっ♥」

「ここかぁ♡
ここを突いて欲しいのかぁ♡
ほらぁ♡　ほらあ♡　　ほらああ♡」

「うふふふっ
この子ニャンニャン泣いちゃって♡
ホントに誘い上手よねぇ♡」

「んおっ♥はっ♥はっ♥ウフッ♥
もっと楽しみたいけど、興奮しすぎてイキそうっ♥」

「お゛っ♥んほっ♥ケツマンコがザーメン搾り取りに来てるわっ♥
この淫乱花嫁肉便器っ♥
種付け一発目のザーメン出すわよっ♥イクッ♥イグッ♥」

「私もそろそろ限界っ♥
こんなに興奮するセックス初めてっ♥
出すわよっ♥孕めっ♥
このメスイキ花嫁っ♥」

「オラッ♥オラッ♥おほっ♥お゛っ♥んお゛っ♥」

「イクッ♥イグッ♥あっ♥あ゛あ゛っ♥あ゛あ゛出るっ♥」

「おおお゛お゛お゛お゛っ♥
種付けっ♥種付けセックス最高っ♥
あはぁっ♥ウフフフフッ♥」

「おらああ♪
このチンポがいいんでしょぉ♡
私の極太チンポ無しじゃ生きられないんでしょ♡」

「こらあ♪
死にそうな顔してるんじゃないよ♡
まだ一発目よっ♥」

「このまま孕むまでやるわよっ♥
着床おねだりしなさい♪
おらっ♡　ケツマンフリフリしなさい♡」

「ホラッ♥ホラァッ♥
ザーメン逆流しても止めてあげないわよぉっ♥ホラホラホラッ♥」

「いいのかぁ？
そんなにいいのかぁ？
二本刺しチンポでイッちゃうのかぁ？」

「おふっ♥おほぉおっ♥ふぅぅぅっ♥まだまだ出るわぁ♥
おいマンコ。
聞いてる？
妊娠確定するまでピストン止（や）めないからね♥」

「おらっ♡
いいのか？　これがいいのか？
うっそｗ　コイツまたアクメしたぁ♡」

「おいマンコ♪
ケツ振りが足りないわよ♡
あふううんっ♪
このマンコ便所気持ちいいわぁ♡」

「んー？　何を勝手に休もうとしてるのかな～？　コラ♡
マンコの分際で横着するんじゃないわよ♡」

「あは♡
また出ちゃうかも♪
う゛っ♡
うくうううぅ♡」

「いやぁん♡
射精止まらないわ～♪
っあン♡
最高ッ♪」

「まだ死んじゃ駄目よ♪
おトイレ君♪」

「おっ゛　今、マンコ動いた♡
コイツ感度良過ぎぃ♡」

「うふふ♪
一生可愛がってあげる♡」

「精液で溺死しなさい♪」

「誓いのキス♡」

「こらこら、フェラじゃないフェラじゃないｗｗ」

「誓いのキスは唇に♪」

「三人でしようね～♪」

「んじゅくじゅくじゅっ♪」

「れろれろれおれろれろれおろろ～♪」

「ちろちろちろちろっ　　ちゅるちゅるちゅるちゅるっ♡」

「んべじぇおおお♪　　じゅろろろろっ♪」

「んちゅあ♪」

「ちゅぽん♪」

「くすくす♪
愛してるぞ♪

死ぬまで尽くせ♡」

「うふふふ♪
忘れないでね♪
オマエは私の所有物♡」

【臨月便器】

「ふぅっ♥・・・フフッ♥
すっかり大きくなったわね、このお腹♥」

「ウフフ♥
上の口も下の口もチンポを咥えるのに夢中で聞いてないのかしら♥
お腹が大きくなってからますます淫乱になったんじゃない？」

「まぁいいじゃない♥
ボテ腹セックスってのもなかなか興奮するわよね♥
お腹の子もザーメン飲むのかしら？」

「ホントよねぇ♥
私達のザーメン漬けだったせいかしら？成長もかなり早いみたいね♥
・・・はいはい♥」

「分かってるわよザーメン欲しいのよね♥
・・・まったく、お腹の子の大事をとってセックスは我慢してあげようと思っていたら
嫁の方からねだってくるなんてねぇ♥
ちょっと淫乱すぎないかしら♥」

「まぁ、私はそっちの方がいいけどね♥
・・・フフフッ♥
ここまで淫乱なメスになるのは嬉しい誤算ねぇ♥」

「あんっ♥
もう口からもザーメン飲みたくてフェラまでしてくるなんて♥」

「ウフフ♥
相変わらずエロいおしゃぶり顔しちゃって♥」

「おほっ♥
舌使いも随分上手くなったわね♥
こんなのすぐ射精しちゃうわっ♥
イクッ♥飲みなさいよっ♥う゛っ♥
あ゛～　　この使い古しクチマンコ最高っ♪」

「ホラホラッ♥
口から飲んだだけで満足するわけないわよねぇ♥
ケツマンコにもたっぷり出してあげるわっ♥ホラッ♥
ちゃんと子供の分までザーメン搾り取るのよっ♥おっ♥
イクッ♥んっ♥あっ♥出るっ♥
うお゛っ♡　と、とまらないっ♡」

「はぁ♥はぁ♥まだまだ欲しいの？
本当淫乱ねぇ♥
・・・アラアラ♥
自分から腰振りだして♥もう♥」

「コラ♪
オマエは産む機械♡
自分の立場をちゃんと弁えなさい♡」

「あら？・・・フフフ♥
しっかりメス母の顔して♥
愛おしそうにお腹を撫でちゃって♥」

「ホント、良妻賢母ねオマエは・・・
ああ♥また興奮してきたわ♥」

「・・・フフッ♥母として子供を愛するのもいいけど」

「嫁として私達のこともしっかり愛してちょうだいね♥」

「とりあえず今はこの興奮してガチガチになったチンポを鎮めてちょうだい♥
・・・フフッ♥まぁオマエの方が興奮しているみたいだけど♥」

「・・・んふっ♥
またエロい音出してしゃぶり始めたわね♥
フフフッ♥」

「・・・ジュッボッ♥ジュッボッ♥ジュルルルッ♥ジュルルルッ♥　」

「・・・ジュッボッ♥ジュッボッ♥ジュルルルッ♥ジュルルルッ♥　」

「ってすごい下品な音ね♥
おまけにドスケベひょっとこフェラ顔♥
・・・見てるだけで興奮するわぁ♥」

「さっきまでの優しい母の顔はどこに行ったのよ♥
完全にチンポ好きのメス顔じゃないっ♥」

「・・・ウフフ♥
旦那様の逞しいチンポに奉仕するための顔なのよね♥」

「オマエは最高のドスケベ肉便器花嫁ちゃんよ♡」

「んほっ♥ふぅっ♥そろそろイクわよっ♥
・・・早い？ウフフッ♥
そんなドスケベ雌顔見せられて早くイかない方がおかしいのよっ♥」

「んお゛っ♥フフッ♥搾り取りに来たわね♥
ますますヒドイひょっとこ顔になってるわよ♥
お゛っ♥出るっ♥イグウウッ♥んんんっ♥」

「あはぁっ♥
ごくごくザーメン飲む姿もエロいわよぉ♥
もっと欲しいわよねぇ♥
ウフフ♥安心しなさい♥」

「まだまだザーメンはいっぱい出るから♥
お腹の中の子にも届くくらい飲ませてあげるから♥
口からもケツマンコからもね♥ウフフフフッ♥どんな子が産まれるのか・・・楽しみねぇ♥」

「さあ、ボテ腹便所♪
オマエに休息なんてないよ♪」

「オマエは産む機械♡
一生私達のチンポを類張りながら
死ぬまで産み続けるの♡」

「おら、股を開け♡」

「着床ザーメン、いっぱいドクドクしてあげるね♡」

「初夜に終わりなんてないからね♡」

「オマエは一生新婚花嫁マンコだから♡」

「あんッ♪
倦怠期が来るなんて思わないでよ♡」

「きゃうんッ♪
永遠の種付け地獄を誓ってあげるからね♡」

「ほらあ♡　オチンポ様を入れて貰う時はどうするのぉ♡」

「三つ指ついて土下座アクメでしょ♡」

「おらあ♡　新婚教育は厳しめでいくよぉ♡」

「ほーら、大好きな極太チンポだ♡」

「いいのかあ　これがいいのかあ♡」

「花嫁はマンコから徹底的に躾けていかなきゃね♡」

「うふふ♡　　必死で腰振っちゃって可愛い♡」

「オマエを選んで良かった♡」

「ほーら、まだまだ終わらないよ♪
私達の極太ペニスで素直なママになろうね～」

「うふふ。
いい子だ。
オマエはとっても躾甲斐がある最高の奴隷マンコだよ♪」

「愛してるよ♡」

「オマエだけ♡」

（完）

【隷胎母奴隷】

「へえ。
それで私達が生まれたのですね？」

「くすくす。
ママらしいよねw」

「私もそろそろ性欲処理用の肉便器が欲しいです。」

「だよねー。
でもママ以上のアヘ顔便器ってなくなーい？」

「くすくす。
確かに♪
我が家には最高のお手洗いがありますものね♪
ね、お母様♪」

「いししーw
そりゃあそおだよね♪
これからも宜しくね～　　ママ♪」

「あら♪
お母様ったらｗｗ
ペニクリが惨めに痙攣勃起してますわよ♪」

「ママ可愛いーw」

「くすくす
あらあら、またオマンコが溢れてますわね、お母様♪」

「でもママって凄いよね♪
普通のオスだった時から去勢寸前短小チンポでぇｗｗｗ
ふたなりチンポをおねだりしてぇｗｗｗｗ
自主的にアヘ顔ザーメンタンクになったんだよねぇｗｗ？
・・・ねぇ？ママ♥
・・・アレ？聞いてるのママ？」」

「・・・ウフフ♥
聞く余裕は無いでしょう♥
何せ父様達との昔話をして興奮したあげく
私達からも胸やお尻を触られ続けているんですから♥
フフフッ♥
また軽くイキましたね母様♥
お仕置きが足りなかったみたいですね♥」

「うわぁっ♥
ママの下びっしょびしょだよ♥
また役立たずのメスチンポでお漏らし射精しちゃったねｗｗ
ってゆーか、精子混じってないから射精じゃないけどｗｗ
娘にイかされる変態ママには相応しいメス汁だよね♥
んっふふ～♥
またイった♥
娘に罵られるのがそんなに気持ちいいの～？んっふふ～♥」

「ですが、そんな健気なお母様が♥
私は好きです♥
・・・大好きです♥
いつでもどこでも、私のペニスに奉仕をしてくれる
最高の肉奴隷♪
・・・ああっ♥ダメです♥
チンポの勃起が止まりません♥
お父様譲りのお母様大好きチンポが♥
お母様を犯したいって♥はぁぁぁっ♥」

「ねーちゃんのマザコンも大概だよなぁ
・・・まぁ、ママがエロいのは同意するけどさ♪」

「あなただってお母様を見るたびに
勃起しっぱなしでしょ♥」

「しかたないよー。
ママはこんなにそそる身体してんだから♪
ほーんと、犯される為に生まれてきたような天然肉便器ちゃんだよなぁ♪」

「お母様♪
おねだりはちゃんとなさいと、躾けたばかりでしょう？」

「いししｗｗ
ママ♪　ちゃんと自分のお仕事しようね～？」

「お母様♪
オマエは私のなあに？」

「えへへｗ
おい、ママ♪
今日から私の事はパパと呼べ♪」

「あらあらｗｗ
オマンコくぱくぱじゃない♪
じゃあ今から、私の事はお父様と呼びなさい。
返事は？」

「やっべ、ママのオマンコ熱々だしｗｗｗ」

「はあ♪
生まれながらに最高の肉便器を持ってるだなんて、幸せ過ぎますわ♪」

「・・・ああっ♥
アタシアタシぃ♪
早くママっ　ママぁ♪
もっとマンコくぱりなさいよ
アタシの極太チンポでママを無茶苦茶に犯してあげるからねっ♥」

「フフフ・・・♥
お母様、メスのスイッチが入ってしまってようですね♥
この淫乱肉便器♡
精液便所♡
チンポしゃぶり機♡」

「こらあ♪
アタシのペニスから目を逸らすんじゃない♪
ママの飼い主はこの極太オチンポ様なんだからね♡」

「うふふっ♪
お尻をフリフリさせちゃって♡
可愛い子♪」

「アタシのオチンポでパパにしてあげるね♪
いっぱい出してママのボテ腹ザーメンタンクを破裂させてやるんだから♪」

「あらあら♥
お母様ったら♥
娘に孕まされるところを想像して軽くイってしまわれましたか？
・・・フフフ♥
これは私もお母様を孕ませるつもりで行かなければなりませんね♥」

「あーあ♥
ハメる前からトロ顔しちゃってｗｗ
ほらっ♥
ママっ♪
こっち見なさいっ♥
オチンポハメハメの時間だよ♡」

「うふふ♪
情けないお母様♡
・・・あはははははっ♥
すごい蕩け顔ですねぇ♥」

「いししｗ
アタシの前立腺愛撫に逆らえるわけないよね♥
ママはアタシに征服されるのが大好きな屈服淫乱肉便器ちゃんだもんね♪
もっとしてあげるっ♥
ほらっ♥　ほらっｗｗ　　ほらああ♪」

「お母様♡
お手手は頭の後ろ・・・ですよね♥
ハメ奴隷しての初歩、また躾ける必要ですか？
くすくす。
その姿勢を崩さないようにね♥」

「おい、ママ♡
なーに抵抗してんのぉｗ？
お仕置きをおねだりしてるのかな？
ほーらぁ♥
乳首コリコリッ♥
カリカリッ♥・・・ふふふ♥
あはははは♥［あっ♥あっ♥］って声出して♥
これは御褒美だよ～ん♡」

「いいですわ、お母様♪
流石に長年調教されてるだけはありますね♥」

「おら♡　乳首でイケよｗｗ」

「くすくす♡　この顔この顔♡　私の大好物♡」

「ふふっ♥
この程度の前戯で何を泣いてるのかな？
乳輪くーる♥くーる♥くーるくるっ♥
スリスリ♥スーリ♥スーリ♥
乳首カリカリ♥コリコリ♥クニクニ♥クリクリクリッ♥」

「あらあらぁ♡
お母様のオマンコ汁大洪水ですわね♡
無様ｗｗ」

「ねえママ♡
そろそろイきそう？
オマンコいく？　オマンコいくの？」

「うふふ。
乳首とペニクリが連動して動いてｗｗ
いつ見ても面白いですわ♪」

「うっふふふふふ～♥
ペニクリアクメしていいよ、ママ♪」

「オマンコ汁ぴゅっぴゅしていいんですよ～♡
うふふふふっ♥」

「ママ♪　覚えておいてね♡
アタシの機嫌を取れれば、いつでもペニクリぴゅっぴゅさせてあげるからね～♡」

「あらあ♡　あらあらあらぁ♡
お母様のオマンコ潮吹きが凄いことになってますわ♡」

「ママ、オマエはアタシの何？」

「うふふ～　お母様、答えてあげて♡」

「そうだよねぇ♪
ママは私の為だけに生かされている
オチンポハメハメ便所ちゃんだよね～♡」

「あらっ♡
お母様ったら♡
またアクメぴゅっぴゅしたｗｗ」

「欲しいの～
アタシの極太チンポ欲しいのぉ？
肉便器アクメしたいのぉw？」

「よくばりさん♪」

「おらあ
マンコ突き出せよ♡」

「クチマンコも全開ね♡」

「全部の穴からザーメン流しこんでやるよ♡」

「逆流は禁止ですわよ♪　お母様♡」

「にっしっしw
さあおトイレちゃん♡
お食事の時間でちゅよ～」

「私達の極太ペニスでお腹いっぱいに流し込んであげますわね♪」

「おらあ♡
いい声で泣けよ～♡」

「うふふふ～
この子、全身で絶頂してる♡」

「う゛っ　　ふ♡
あ～　　ママのマンコ便所気持ちいいわあ♪」

「くすくす。
使うのは下のお口だけじゃ、ないよね？」

「っあ゛
あんッ♪
しゅ、しゅごい…
このオマンコ絡みついてくるよぉ♡」

「さあ、私も楽しませて貰いますわよ♡
ほらあ、便器！
もっと口を開きなさい♪」

「んあああああああ♪
駄目ぇ♡
マゾマママンコがうねうねするううう♪」

「う゛はあああああ
はあああああ～
このクチマンコ、相変わらずっ
う゛っ♡
んはあああ♡
そこらのメス便所なんかより
あ、あひええ♡
しゅ、しゅごしゅぎますわぁ♡」

「ちょ、ママ♡
ちょ、やめっ
あっ　やだっ
イクッ♡」

「ああああああああああ。
んほっ♡
いぐううッ♪
ハアッ！　ハアッ！
ハアハア…
この便器以外じゃイケない身体になっちゃいそうですわ♪」

「ママッ！　　ママッ！　　凄いっ凄いっ！！
ママの奴隷マンコすごすぎいいい♡
で、でちゃうよぉ♡
んぐうううううううう♡
あああああああ♪
ぴゅっぴゅとまんんあいよぉ♡」

「お母様ッ♡　お母様♡
最高の肉便器よッ！
絶対孕ませるからっ♡」

「んぎゅうううううう゛♡
しゅごいいしゅごいぃ♡　しゅごしゅぎぃぃぃいいいい♡
精液なくなっちゃうよおおおおおおおお♪」

「出るっッ　出るっ♡
中だししたいのに　中だししたいのにっ♡
クチマンコぴゅっぴゅが止まらないのおお♡」

「イクっッ！！！　　イクっッ！！！　イクの止まらにゃいいいい♡」

「おほっ♡　おほっ♡　　おほほーいッ♡
ザーメンぴゅうっぴゅ終わりませんわぁあああ♡」

「いくうううう♡
いくうううううううううう
ママの熟々マンコでいっちゃうのおおおおおおおお♡」

「おほほっ♡
おほほほーーーーーーーーーーぃ♡
りゃめぇ　りゃめぇ　りゃめらにょぉ────────────♡」

「あああああああああああああああああああああああああ
いぐうううううううううううううううううううううううう！！！」

「んほおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお」
いぐうううううううううううううううううううううううう！！！！」

「はひっ　はひっ　はひひぃ〜　　しゃいこう♡」

「んほぉ♡　　んほっ♡　んほほー♡　　しあわしぇ♡」

「にしし♪　　愛してるよ。　ママ♡」

「うふふっ♪　愛しております。　お母様♥」